

北海道鉄道本部が大会 鉄路を守り、9条改憲許さない

建交労北海道鉄道本部は12月9日に第18回定期大会を開催し、JR・関連職場で働く組合員など30人が参加しました。大会には道本部森国委員長と全国鉄道本部相木委員長が来賓として参加し激励のあいさつを述べました。大会では、この一年間の北の鉄路を守るとりくみや安倍政権による暴挙とのたたかいなどの活動報告と、国鉄分割・民営化の失政による鉄路存続問題でJR北海道・関連会社で働く労働者の雇用と地域住民の暮らしを守るとりくみと、憲法改悪阻止・平和を守り国民本位の政治をとりもどす運動方針の提案が行われました。各支部から、「JR北海道が示した『維持困難路線』の沿線住民との共同のとりくみと私たちの運動の方向性」「憲法9条改悪阻止」「原発ゼロ」など地域での活動について活発な発言が続きました。発言にもとづく運動方針の補強を確認し、新役員を選出して大会を終了しました。新三役は、竹田吉宏委員長(苫小牧・再)、加藤豊副委員長(小樽・新)、最上暢書記長(苗穂・新)となりました。

函館運送支部と函館合同支部の2分会が年末一時金妥結

函館運送支部(本採用)2.083か月分/東洋実業0.8か月+2万円/函館小型0.7か月分+5万円

函館運送支部は、12月1日に年末一時金の第2次回答を受け妥結しました。妥結内容は、本採用2.083か月(452,210円=前回回答比+0.021か月4,558円:前年2.016か月・447,925円)、58歳到達者1.666か月(407,558円=同0.017か月4,150円:同1.613か月・389,733円)、東京嘱託1.666か月+15,000円(372,013円=同+0.017か月3,642円:同1.613か月+15,000円・354,720円)、臨時従業員1.458か月+23,000円(240,594円/同+0.015か月2,237円:同1.412か月+23,000円・228,852円)、60歳到達者50,000円+12,000円(62,000円/同額:前年同額)です。

函館合同支部東洋実業分会は12月3日に年末一時金について「0.8か月分+2万円」(継続雇用労働者にも同一支給)で妥結しました。同函館小型運送分会は12月4日に「0.7か月分+5万円」(前年と同じ)で妥結しました。

**2019年
 知事選挙**

明るい会が「キックオフ集会」

市民と野党の共闘で道政転換を

明るい革新道政をつくる会(明るい会)は、12月9日に「チェンジ2019~こんな北海道に~キックオフ集会」を開き、2019年4月の知事選挙にむけて「市民と野党の共闘」をさらに前進させて道政を転換するとりくみをスタートさせました。主催者あいさつで黒澤幸一代表世話人(道労連議長)は前回(2015年)知事選、衆議院5区補欠選挙と先の総選挙での共闘の前進を述べ「国いいなりの道政から道民にやさしい道政に転換しよう」と訴えました。集会では平和、子ども医療費、原発、農業、鉄路を守るなど道政への要求が出され、共産党道議団の真下紀子団長が「高橋道政4期目の検証」について報告しました。このあと3人の参加者から、総選挙での共闘の経験と知事選にむけた決意が述べられました。